

# 市場から世界をみれば

IS&C 情報システム株式会社 大谷淳一



## 第25回「水が足りない！」③

ために各種の国際法が存在して、パキスタンは用されないという保障は在してはいるが、しよせ条約違反だと非難していかないのである。最も大事なことで、他国の心配は二の次となる。両国間の争いは、解決したわけではなく、緊張状態は続いているのである。1960年、世界銀行の仲介により、両国間に「ダムは水力発電の取水しない。タービンを回してから、そっくりそのまま流れていく。パキスタンは今まで通りの水を確保できる」と主張した。それはインドの主張を文面通り信じることはできない。両国はこの地域をめぐって過去に何度も紛争を起こしているからだ。この巨大なダムが発電以外の目的で使われる。しかし、私はインドの主張を文面通り信じることはできない。両国はこの地域をめぐって過去に何度も紛争を起こしているからだ。この巨大なダムが発電以外の目的で使われる。

過去の戦争の原因は、

権力闘争やイデオロギーの闘争などが主流であった。しかし、現在は、原因が別にあるように見える。水源を持つ国とそこから流れている川のある下流地域国では、常に凄まじい駆け引きが行われているのである。

真実は違う。それぞれの国が水の確保を目指した戦争なのである。例えば、水源国や水源国に近い下流域国が巨大なダムの建設を行うと、それより川側となり、パキスタンの穀倉地帯パンジャブ州は最大の水源を確保したことになる。と、そこが現在、国境のすぐ先のチェナブ川に、インドのダムが建設される予定がある。このこと

【略歴】 1957年北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、卸売業者向けのコンサルティング、セミナー、業務改革、講演を各地で行っている。主な執筆として「青果卸の業務改善」「青果卸の業務改善2」「食糧操作」などがある。